

世界中の民家を訪ね歩いて十五年ほどになるだろうか。もちろん写真をなりわいとしてから数多くの場所や国で多くの民家を撮ってはいた。民家にも一つ歩踏み込んで撮り始めるようになったのはちょっとしたきつかけからである。

十数年前、松下電工の人がカレンダー用の写真を探しているので小松さん持っていないですか、と当時東京工業大学の建築科助教授(現在は教授)の八木幸二先生から連絡があった。話を聞くと世界の民家をテーマにした新しいカレンダーを作るというものであった。そのときは今でも覚えて

いるがイエメンの紅海沿岸に細長くのびる海岸砂漠、ティハマ地方の民家とヒマラヤの王国ブータンの民家を撮った写真を担当者に貸し出した。



インドネシア(スンパ島)

カレンダーができて担当者の人が監修の八木先生のごころに挨拶にきたのでそこよばれた。その席では、できあがった新しいカレンダー、そして次の年のカレンダーをどうするか、ということが話題になった。八木先生はご自身でも世界の民家を訪ね歩かれていたし、私も世界中のごころでも出没して仕事をしていたので、写真を日本に探すよ

り取材に行ってしまったほうが早いし、良いものができるのではないかと提案を二人で担当者の人にしてみた。このようなことからカレンダー制作担当者も民家を探す初めての取材にできることになった。事前にいろいろ調べていくのだが、資料が古かったりすると実際にその民家があるのか消えてしまったのか確かではない。名もない民家の写真を撮るには取材力が

必要だ。その年はハワダンという室内に風を取り込む装置が付いているパキスタンのハデラバードの家、イエメン

のガレージには自分の車が置いてある。レンタカーだとろくな車がないし、しっかりと車を借りようとするとても高いものになる。それに比べ自分の車だと思つて存分使える。屋根に登って高いアンクルから撮影できるようにもしている。その車でベルギーに走り出そうとしてバッテリーを新しくし、エンジンをかけ



トーゴ(タンベルマ族の土の家)

グレイグレイと 民家探訪

小松義夫
Yoshio Komatsu

ゆる雑誌、テレビ、映画、人のつわざなどから印象的な民家を探しはじめた。何年かすると、地図を見ただけである種の勘が働き、とりあえず現地に行って民家を探すということまでできるようになってきた。そして気がつくときまで知っていたつもりであった地球をまた再びグレイグレイとまわる旅が始まってしまった。

そのような民家撮影でヨーロッパや中東などに行くときは自分の車があるととても便利だ。先日ベルギーに行くのに先ずパリに向かった。パリ

と一発でかかった。よく考えてみると二年ぶりである。車の中は二年前のままで。そのとき使っていた地図や後ろの席に置いてあった三、四本のミネラルウォーターもそのまま、半分飲みかけのワインはワインヴィネガーになっていた。私の車はガレージの中でパリの夏を二度過ごしていたことになる。

一年も車のことを忘れていたのは『地球生活記』(福音館書店)という本の編集のためである。四、五年前からぼんやりと今までの仕事を本にできたらと思つて準備はして

いた。編集者と会ううちさそろそろということになって、とりあえずラフなスケッチをつくってみた。自分ではどれだけの写真があるか把握していなかったが、スケッチを起してみると六〇〇ページを超えてしまった。編集者と一緒にそれを三〇〇ページをめざして選びなおし、結局三三六ページにすることに。本気で写真選定作業にとりかかった。この段階で本がで

きかぬと思ひ安心した。しかしその矢先に、大変な作業になりましたよ、と編集者は言う。そのとき私にはその言葉の真意がよくわからなかった。はじめてみるともう大変であった。ほかの仕事はほとんどできない状況になり、本づくりに入る前に編集者に言われたことを実感するのであった。これまでたくさん本や写真集を実際に担当してきたベテラン編集者の言葉の凄みが心に残った。写真の配置を決める作業がはじまり、そして写真とデザインに合わせた文章書きがはじまると、もう息もつけられないほど本づくりにふりまわされる。休んだり逃げたりすることはもうできない。そうすると本はできない。印刷がはじまり色校正が開始めると本ができつつあるという実感はわいてくるものの、なにしろ三三六ページなので色校正をするだけでもフラフラになる。

愛書狂

同じ古書でも、献辞があるほうが、ないよりも高くなることはだれでも知っている。しかし、献辞を捧げられた人がたいして有名でない場合、献辞なしよりもかえって安くなることはあまり知られていない。だから、サイン会などに駆り出されたときには、相手の名前を書くかどうかいちいち確かめるようにしている。名前を書き込んだら最後、その本は本人にしか意味のないものになってしまうからだ。しかし、なかには古本の事情に通じているらしく、はじめから「先生のお名前だけお願いします」という人もいる。これはこれで、なんとなくいやな感じがするものである。献辞といえば、パリはサンジェルマンのモンフオーコン街にあった古書店で、おかしな体験をしたことがある。イヴァン・クリストの『メタモルフォーゼ・ド・パリ』という本が三〇〇フランで見つかったので、金を払おうとしたところ、店主が本の扉をめくって「おや、これは献辞本じゃないか。こんな値段では売れないよ」とい

だした。「そんなのズルイじゃないか」と抗議すると、「いや、これはイヴァン・クリストがだれか有名な人であつた献辞だから、三〇〇フランでは売れない」といいはる。「じゃあ、だれあての献辞なんだ」と尋ねると「ちよいと待て。いま調べるから」と老眼鏡をかけて、崩し字の献辞を読んだ。「なんだ、こりゃ、おれあての献辞じゃないか。なおさら売るわけにはいかん」「売りにさいよ。有名なあてじゃないことがわかったんだから」「いや、これは非売品だ」。押し問答のあげく、結局、本は売ってもらえなかった。本

当の商売人ではなかったのだらう。数年後に、この店、代替わりしてしまつた。(鹿)

(筆者=写真家)

第一回踏査行の全記録

「砂に埋もれたホータンの廃墟」

オーレル・スタイン著



越えた古跡で発掘された数百点におよぶカローシユティー文字の木簡文書の収集は、考古学・言語学上きわめて重要な成果であった。スタインは玄奘三蔵を尊敬し、「わが旅の守護聖人」と呼んでいるほどで、いつも『大唐西域記』を手ばなせず、その記述を实地で確かめるのを常としていた。

今世紀もつとも偉大な中央アジア探検家のひとりであるスタインの第一回踏査行の全記録である。彼はこの探検で初めて世界的に知られ、彼自身も自らの生涯の使命を明確に自覚したのである。オクスフォード大学で考古学を専攻し、インドに渡って英国政府の公職に就いたスタインは、一九〇〇年五月、「北方を遮る大山岳



三次にわたる踏査行の記録

「中央アジア踏査記」(新装版)

オーレル・スタイン著

十九世紀から二十世紀にかけて中央アジア探検の最も盛んであった時期に、すぐれた探検家を幾人も数えることができるが、その双璧はスタインとヘイデンであろう。イギリスの探検家・考古学者スタインは今世紀の初め三次にわたって中央アジアの踏査を行ない、砂中に眠る古代オアシス都市の廃墟を発掘・調査して膨大な遺物を収集し、シルクロードに花開いた特異な文明の相を明らかにした。その詳細な学術報告書とは別に

それまでほとんど知られていなかった敦煌が一躍世界の脚光を浴びたのは、このときの千仏洞での収集品によってであった。第三回は一九一三―一六年。カシユガルからタルコット峠を越えてパミールに入り、三たびタリム盆地南辺の古跡を探った二度目の踏査調査を行ない、敦煌を経てゴビ砂漠のエツィン・ゴルまで足をのびた。スタインの中央アジア踏査にかけた情熱とそのすばらしい考古学的・言語学的成果は、読む者を感嘆させずにはおかないであろう。



鉄文化の伝播と発展

「鉄の古代史3」 騎馬文化

奥野正男著

『鉄の古代史』1・弥生時代と2・古墳時代において、著者は国内における鉄生産を詳細に追求した。シリーズの最後を飾る本巻では、鉄文化の本源を求めて、北方を中心としたアジア大陸全般に目を注ぐ。そこには、鉄製の馬具と武器に依拠して東西を駆けまわる騎馬民族とその文化があった。鉄文化の古典的著作「技術・文化は金属の民であり鉄の民であり、

中世ヨーロッパを語り尽くす

「中世を旅する」 奇蹟と愛と死と

新倉俊一著



ヨーロッパの『トリスタン物語』を読み、激しい運命的な恋愛の前者と、心理の綾を重んじる宮廷的恋愛の後者とを比較し、魅力を語る。最近、映画化され、今も人気が高いジャンヌ・ダルクはいくつもの伝説に包まれている。「心の声と天の声を混同し」、彼女を軍事的・政治的な行動に駆り立てたものはないか。火刑台に消えたジャンヌの虚実に向かい、中世は男女のスキヤンダルも事欠かない。十二世紀の知識人アベラールと二十歳以上も年下の教女子、才媛エロイズとの恋愛は波乱の展開となる。去勢されて修道院に籠もったアベラールに「激しく迫る女」エロイズ、その生々しい声を書簡を通して聞く。中世フランス文学の碩学が縦横に語り尽くす格好の歴史読物。図版多数

かつてないワインブームの波にのって、数多くのワイン本が出版されているが、「もっとワインを楽しもう、より深くワインを味わおう」という観点から作られている本は少ない。その多くがワインの情報を提供するガイドブックであり、知的にワインを鑑賞しようというスタンスで作られた本はきわめて少ない。本書はそのきわめて少ない例外に属する本である。より深くワインを味わい、大いなる楽しみをワインから引き出すために必要なティスティングの基礎的な知識と技術を読者に提供しようとするものである。グラス一杯のワインの中には、グラス一杯の自然があるといわれる。自然が私たちに与えてくれた大いなるめぐみ、私たちの五感をフルに活用して味わうことができるのであれば、どんなに素晴らしいか。そのためにはティスティングの知識が不可欠。ほんの少しだけ自分の五感に意識を集中し、ティスティングの訓練をつむだけで、そのワインがどんなに美味しいかが表現できるとすれば、もっと味わい深いワインライフをおくれるだろう。

ビギナーからソムリエをめざす人まで

「ワイン・ティスティングを楽しく」

岡元麻理恵著



本書は、視覚(色)・嗅覚(香り)・味覚(味)・聴覚(シャンパーニュの泡)・触覚(温度)の五つの観点から、ティスティングの基礎的な知識と技術をやさしく解説している。ビギナーからソムリエ試験をめざす人まで、幅広いマニアのための格好の入門書。(四六判 二四〇頁 本体二〇〇〇円 1月下旬発売)

白水社の本棚

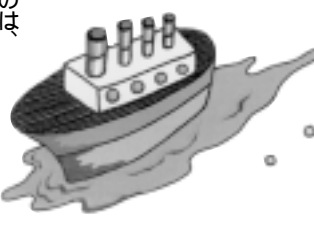
101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusuisha.co.jp

海の上のピアレスト

アレックスサンドロ・バリッコ

草壁伸子ノ訳 1200円

海の上で生まれ、一度も船を降りることのなかった天才ピアレストの伝説



彼が弾くのは、いまだかつて存在せず、ひとたび彼がピアノから離れると、もっごにも存在しない音楽だった……



監督/ジュゼッペ・トルナトーレ
音楽/エンニオ・モリコーネ
主演/ティム・ロス
全国松竹系にてロードショー
アシック・エクス 日本キタイ配給

フランス中世文学集「全4巻」

- 【訳】新倉俊一 信仰と愛と 5600円
- 神沢栄三 愛と剣と 4700円
- 天沢退二郎 笑いと愛と 5049円
- 奇蹟と愛と 6019円



フランス中世文学の宝庫から名作を選び、美しく力強い日本語に訳出した画期的試み!

海外文学

表示価格は税別です。別途に消費税が加算されます。

『ツバメ号』が生まれるまで

「アーサー・ランサム自伝」(新装版)
アーサー・ランサム著



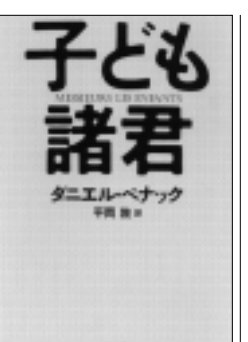
アーサー・ランサムは自伝をこころから始める。自分にとっての最初の記憶は、二歳のときの「夜間航海」の末にベルファスト港に入港した汽船の甲板から、父にだかれて派手な色のスクナー船に豚がのせられるのを見ていたさま」である。ここでランサム自身は「ツバメ号」とアムゾン号」をはじめとする十二の物語にあふれるユーモアと、それらの物語を乗せて進む「船」があらわに冒険に登場するのに満足して、もっとも「ランサム」が「子供供達を彷彿とさせる。けれど、ジャーナリストとしてのランサムは、ファンにとつては新鮮な夢をふくらませるランサムその人。この本が単に青春の回想録に終わっていないのは、あの通りこの通りの知られざる歴史や、ジョンソン、ハズリット、ステイラー先人たちにまつわる豊富な逸話が盛り込まれているからである。つまり本書は、ランサムの青春の日々そのものであるとともに、ロンドンという歴史ある街の格好のガイドブックという顔をあわせもっている。

ランサムの青春の日々

「ロンドンのボヘミアン」
アーサー・ランサム[著]



一九一六年のある冬の一日、二十歳のランサムがセシル・チェスタトンと二人、セント・マーチンズ・レインのある店でお茶を飲んでみると、ステファニー・スティーヴンズという、将来作家・研究者として有名になる女性が現れ、ランサムに「ご言った、だれかが書いていた方がい本があるんだけど、あなたこそ、それを書いてしかるべき人間よ。ロンドンにおけるボヘミアの本」。次の年の秋、二十歳のランサムの手には、厚表紙の灰色の本が載っていた。それが「ロンドンのボヘミアン」である。年を経て振り返ったようなスタイルで書かれた本書について「再版されたら困ると思う」と自伝の中で語っているが、作者の意図に反し、版を重ねて読み継がれているのは、ここに、二十世紀初頭のロンドンが、鮮やかに写し取られているからだ。ロンドンの「ボヘミア」とは、ある特定の地域ではない。さまざまに入り組み混じり合っている。フリート・ストリート、ソーホー、チェルシー、ハムステッド……ランサムは、紫煙とグラスの輝きの中に明け暮れるボヘミアンたちを、外側からではなく、その一員として背伸びをしながら共有した時間の内側に、テムズ河畔の青い霧に包まれた街の姿とともに再現してみせる。画家、詩人、作家……そして「物語」への夢をふくらませるランサムその人。この本が単に青春の回想録に終わっていないのは、あの通りこの通りの知られざる歴史や、ジョンソン、ハズリット、ステイラー先人たちにまつわる豊富な逸話が盛り込まれているからである。つまり本書は、ランサムの青春の日々そのものであるとともに、ロンドンという歴史ある街の格好のガイドブックという顔をあわせもっている。



子ども諸君

「子ども諸君」
ダニエル・ペナック作

「イマジネーション」とは、でませではない」というのが変わり者の国語教師クラスタンの口癖だった。ここはパリの中学校、クラスタン先生が作文の講釈をしているところだ。今日のテーマは「理想の家族を想像せよ」。出される課題はなぜかしらいつも家族にかかわるものだった。そして毎度のことながら、クラスタン先生の容赦ない批評「安易な解決はいけないぞ」「人はゲームボーイの登場人物じゃないんだ」等々にみな怖れおののいている。ところが、そのなかの悪ガキ三人組がいた。書きを取り合っているところを先生に見つかった。三人はたつぷり絞られたうす、罰として作文の宿題を出された。なんと本当に自分た

笑いやすらぎ

「続・ママは決心したよ!」
ベイリー・ホワイト[著]



突拍子もないママと、それに輪をかけて変な親類一同が巻き起こすアメリカ南部のおつかし話で感動的なお話満載し、日本でも大評判になった著者の第二作。ちなみに著者は、前作に引き続き本書の朗読で全米の国民的人気者になっている。もちろん今回も、ホスピタリティあふれるジョージアの田舎で、前作とかわらぬおつかし話もじんわりと人の心を打つお話が展開される。巻頭の「ウェディング・パーティの客」では、いきなりおかしなおばあちゃんが登場して著者の顔をじろりと

「セックスという幻想」を狙撃せよ!
鴻上尚史作

お待たせしました!
人気劇団・第三舞台の鴻上尚史が、英国はロンドンでの演劇武者修行から帰ってきました。鴻上ネットワーク第一回作品として上演された本書は、「ものがたり」のルネサンスをうたいあげ、悩める者を目覚めさせてくれるラフストーリー。著者みずから出演もこなし、若手俳優の大胆な起用とそのテーマゆえに賛否両論の嵐を呼ぶなど、話題作としての魅力もたつぷり。



「援助交際」で手痛い目にあう二人の女性。20代の水本なつみは自分を変えたいがために、「売春」を、50代の林田和桂は浮気する夫への復讐心から初めて「買春」を試みた。こころの傷を深めてしまった彼女たちは、カウンスリングの担当医と一緒に、山奥まで

白水社の本棚

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusuisha.co.jp

片目のオオカミ



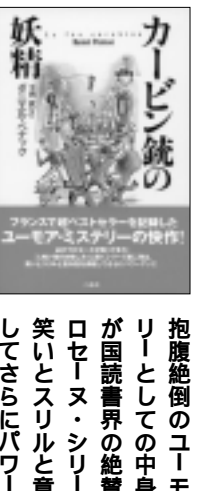
人間との戦いで傷つき、生きる気力も失っていたオオカミは、限りなく優しい心の少年と出会い、再び生きる力を取り戻す。人間と動物との共生、未来への希望をこめた、愛と友情の物語 1500円

人喰い鬼のお愉しみ



苦情処理係を勤めるデパートで謎の連続爆破事件が起こり、疑いの目を向けられたマロセーヌ君。かくてはならずじと捜査に乗り出すのだが……痛快コミック・ミステリー。

カービン銃の妖精



抱腹絶倒のユーモアとミステリーとしての中身の濃さでわが国読書界の絶賛を博したマロセーヌ・シリーズ第二弾! 笑いとしりと意外性を満載してさらにパワーアップ。

ママは決心したよ!



車に轢かれたの鳥をおいしく料理し、台風のさなかペラペラで平然と眠る風変わりなママと、それに輪をかけておかしい家族。抱腹絶倒の全米ベストセラー・エッセイ。

海外文学

表示価格は税別です。別途に消費税が加算されます。

「《エクスプレス》ラオス語」

鈴木玲子、ポーケオ・チャントマリイ[著]

気軽に学ぼう世界の言葉 のキャッチフレーズで好評の入門シリーズのラオス語版。ラオス文字と発音から学び始めます。その仕組みを頭に入れて、実用的な会話文と文法解説で構成した本文(20課)に進み、豊富な例文と練習問題で基本をしっかり学びます。ラオス文字は、覚えてしまえばアルファベットと同じ、慣れるまでカナや発音記号でサポートしています。

四六判 160頁 本体2400円 別売カセット本体2820円



好評《エクスプレス》シリーズ 既刊本より

- 《エクスプレス》タイ語 水野 潔、上田玲子[著] 本体2000円 別売カセット本体2820円
- 《エクスプレス》ビルマ語 加藤昌彦[著] 本体2700円 別売カセット本体2820円
- 《エクスプレス》マレー語 近藤由美、ファリダ・モハメッド[著] 本体2200円 別売カセット、CD各本体2820円
- 《エクスプレス》ベトナム語 川口健一[著] 本体2330円 別売カセット本体2524円
- 《エクスプレス》フィリピン語 津田 守、ロサリオ・ユイ[著] 本体2000円 別売カセット本体2820円
- 《エクスプレス》インドネシア語 柴田紀男[著] 本体2000円 別売カセット本体2820円

五社共同企画《音楽書フェア》 世紀の演奏家・作曲家たち

1月上旬から全国主要書店でフェアを開催

白水社

- ヘルツフェルト 渡辺 護訳 わたしたちの音楽史 本体2400円
- フルトヴェングラー 芦津丈夫訳 音と言葉 本体3600円
- フルトヴェングラー 芦津丈夫訳 音楽ノート 本体2500円
- フルトヴェングラー 芦津丈夫 / 石井不二雄訳 フルトヴェングラーの手記 本体4200円
- フィッシャー=ディースカウ 原田茂生 / 吉田文子訳 シューマンの歌曲をたどって 本体6600円
- フィッシャー=ディースカウ 原田茂生訳 シューベルトの歌曲をたどって 本体6600円
- ブレナー 立石光子訳 傑作オペラはこうしてできた 本体2300円
- ハルトナック 松本道介訳 二十世紀の名ヴァイオリニスト 本体3800円
- 青柳いづみこ 翼のはえた指 本体2400円
- ミヒェルス編 日本語版監修=角倉一朗【カラー】図解音楽事典 本体5700円

音楽之友社

春秋社

- バーンスタインの思い出 パートン
- 異端のマエストロ チュリビダツケ ウムバッハ
- 評伝エフゲニー・ムラヴィンスキー フォミン
- フルートの巨匠 マルセル・モイーズ ワイ
- ギドン・クレーメル 琴線の触れ合い クレーメル
- ハンス・ホッター テューリング
- ディートリヒ・フィッシャー=ディースカウ ノインツィヒ
- 大作曲家 マーラー シュライパー
- 大作曲家 チャイコフスキー ヘルム
- 大作曲家 モーツァルト ヘンネンベルク
- 大作曲家 ショパン フールニケル
- 大作曲家 バッハ ゲック
- バッハ ロゴスの響き 丸山桂介
- ハイドン復活 中野博詞
- バッハ復活 小林義武
- ラヴェル ロザンター
- フランシス・ブーランク エル
- ブラムス 門馬直美
- パリのブーランク 小沼純一
- バッハ探求 樋口隆一
- クレンペラー シュトンボ
- 奇跡のホルン ペティット
- 大ヴァイオリニストがあなたに伝えたいこと 千蔵八郎
- 名歌手があなたに伝えたいこと 千蔵八郎
- 名指揮者があなたに伝えたいこと 千蔵八郎
- 大作曲家があなたに伝えたいこと 千蔵八郎

東京書籍

ヤマハミュージックメディア

- ルネサンスの音楽家たち 今谷和徳
- ルネサンスの音楽家たち 今谷和徳
- プリマ・ドンナの歴史 水谷彰良
- プリマ・ドンナの歴史 水谷彰良
- バッハ=魂のエヴァンゲリスト 磯山 雅
- のぼりつめたら大バッハ 砂川しげひさ
- ワーグナー=ヤールプーフ1998 特集=指揮
- バッハ事典 磯山 雅・小林義武・鳴海史生編著
- ピアノを読む本 音楽を読む本編集委員会
- ヴァイオリンを読む本 音楽を読む本編集委員会
- ショパンを読む本 高場四郎、室田尚子他
- クラシック音楽の新しい聴き方 ウォー
- オペラの新しい聴き方 ウォー
- 絵本で読む音楽の歴史4 ベートーヴェン ベルガミーニ
- 絵本で読む音楽の歴史5 ショパンとロマン派の音楽 カヴァッレツィ
- 絵本で読む音楽の歴史7 オペラのすべて タヴェルナ

白水社創立85周年 記念企画のお知らせ

- 池内 紀個人訳 カフカ小説全集 [全6巻] 長い間待たれていた、カフカの手稿そのものをテキストとした新校訂版全集。従来の版が抱えていた問題点を払拭し、池内紀個人訳で贈る21世紀への遺産。 予価本体2500円~3200円 11月刊行予定
- アルフレッド・フィエロ著 鹿島 茂監訳 パリ歴史事典 [全1巻] 政治・思想・宗教から風俗まで、千余の項目で浮かびあがるパリの素顔。人間のあらゆる営みを描き出した、読んで抜群におもしろい事典です。 予価本体7400円 10月刊行予定
- 伊吹武彦他訳 杉本秀太郎選 アナトール・フランス集 [全12巻] (復刊) 真の小説好きの味読に耐える長篇と珠玉の短篇を集める。端麗な文章と軽妙な諷刺で人間の愚かさを鮮やかに描き出す、フランス文学の最高峰。 各巻予価本体2500円 10月刊行予定
- 日仏料理協会編 フランス 食の事典 (仮題) [全1巻] 食材、飲料、菓子、料理人、美食家、レストラン、そしてルセットと、世界に冠たるフランス食文化のすべてが分かる事典。英仏伊語=日本語索引付き。 予価本体9500円 10月刊行予定

「文庫クセジュ 822」
「英語語源学」
「シャーンジャック・プランタン」著

「世界の共通語」としての英語。その語源を探る学問は中世以来綿々と受け継がれてきた。本書はこんなにち理解され実践されている英語語源学の学問的性格とその方法を、英語と英語の文化に関心を寄せる一般読者が読んでわかるように、くわしく紹介している。

なお、巻末に網羅的に収録された文献リストは、英語語源学および英語史・歴史英語学の研究の現状を概観するにあたってきわめて有益である。

(森本英夫、大泉昭夫訳 新書判 一六六頁 本体九五一円)

「文庫クセジュ 823」
「レコンキスタの歴史」
フリップ・コラ著

イベリア半島を征服しようとするイスラム教徒たちがいて、アンダルスと呼ばれるその領土を奪還しようとするキリスト教徒たちがいた。本書は、八世紀初めから十五世紀末にかけて、両教徒のあいだで繰り広げられた戦い「スペイン語で「再征服」を意味するレコンキスタ(国土回復運動)」の顛末について、図版もふんだんに、詳細に語っている。

なお、巻末にはイスラム研究を専門とする私市正年上智大学教授の序文を収録した。

(有田忠郎訳 新書判 一七六頁 本体九五一円)

編集 昔からそうだった。「思い込みがはげしい」。こんな私の哀しき性は、ラッシュ時の電車で、無神経オバサンを許すことができないでいる。確かに、あのような不快指数100%の車内において自分の感覚を意識的に鈍くするといふのは賢い反応なのかもしれない。が！しかし足を踏み、バッグ(鞆)パンチをしながらワレ、カンセズといった様子のおば(か)さんに、いつ

私が彼女に向けるこの憎しみに似た感情は、おそらく自分と同じ「女性」としての彼女たちへの愛情ゆえのものだと分析(正当化)している。先日、自分の目の下にちりめんじわを発見して以来、彼女たちへの執着心(愛情)はますます強くなる一方で、うーむ、こんなじやだめだ。バランス感覚よ、雑誌つくりは (お)

営 業 部 だ よ り

便利な世の中になったものだ。パソコンのことである。機械に詳しくない私ですらパソコンの有用性は認めざるを得ない今日この頃。でも考えるべき点はまだあるようだ。最近ある書店さんを訪れたときのこと。書店員さんとパソコン画面をのぞきこみながら、在庫確認も品切れ本の発注も一瞬で処理してしまふ。「便利ですね」と感心したら、「手作業は減ったけれど、どこに何があるかわからなくなってきましたよ」とのこと。すこいもので、あれだけの数ある在庫の中から一冊の本

【おねがい】 住所表記が変更になりましたら、御名前・新住所・旧住所、お届けいたしております本紙の帯封コードをお知らせください。

本の 十字路

「あるどーでもいい子が 箔付けなどいらぬ 私なぞ、いつもの親日でした。」

「あるどーでもいい子が 箔付けなどいらぬ 私なぞ、いつもの親日でした。」

「谷岡ヤスジ傑作選・天才の証明」(実業之日本社)を探して書店を何軒も回ったが一冊もない。某大書店のコミック売場に至っては「それはコミックではありませぬね」と断言されてしまった。「コミックなんだよお。やむなく遅いのは覚悟で注文してもらったところ、翌日の朝日新聞に書評が載り、翌々日の某大書店書評本コーナーにしっかりと置かれていた。いったいどこに隠れていたのだ。私の手元には未だ入らない。ま

辞典 白水社の本棚 101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusuisha.co.jp

Le Dico 編集 中條屋進 / 丸山義博 / G.メランベルジェ / 吉川一義

B6変型判 1788頁 見出語数約35000語 2色刷 3800円 別売CD シングル(本体1460円・付録「発音と綴り字」の用例を収録)

一番新しく 一番わかりやすく 「ル・モンド」まで読める辞典が見やすくハンディーにリニューアル 初めてでもわかるカナ発音付き

現代フランス語辞典【第2版】

新語・新語義大幅増補 定評ある「ディコ」の全面改訂版

パスポート独和辞典【第2版】

編集責任 細谷行輝 編集 菅谷泰行・市岡正適・山取清・我田広之・山下仁

好評学習独和の全面改訂版。新正書法にも完全対応。厳選された見出語15,000は初学者に必要な十分な内容。カナ発音併記、コラム、イラストなど楽しく学ぶ工夫満載。

【2色刷】B6変型判 860頁 2900円(別売CD1460円)

現代スペイン語辞典【改訂版】

監修 宮城昇 / 山田善郎

語数・用例・説明を大幅に増やして全面改訂。スペイン語をより正しく、よりこまやかに理解できます。中南米の表現、最新用語を多数収録。46,500語。新アルファベット配列。文法概要付。

【2色刷】B6変型判 1536頁 4000円